

「大人の大切な一言」を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聞きいただきありがとうございます。

今朝は、新学年が来週から各小中高、大学、大学院、専門学校、あらゆるところで始まりますので、「親の大切な一言」、「親の一言の大切さ」をお話させていただきます。

2. 「大人の大切な一言」を考える

(1)おじいちゃん、おばあちゃん、それからお父さん、お母さん、おじさん、おばさん、どなたでもいいのですが、子どもの身近にいる大人が子どもに言う「一言」が大事です。特に新学年に「一言」子どもに声をかけるということがいかに大事かということをお話したいと思います。逆に大人の「一言」が子どもにマイナスの影響を与えることもあるので、注意が必要です。

(2)例えば最近の高校生は、本当に勉強しませんね。栃木県の高校生は勉強しない。そればかりでなく日本中の高校生は勉強しない。それでは、国のどこの高校生が勉強してるかといいますと、インドの高校生、中国の高校生、東南アジアの高校生をはじめとして、新興諸国の高校生は本当に、真剣に勉強しています。彼らはなんのために勉強しているか。一所懸命勉強して上の学校へ行きたい。できれば、大学、短大、専門学校とかで勉強したい。いい仕事に就きたい。そういうことで目指し、寝る時間をおしんでまで勉強している、これがアジアの国々の高校生であります。それに比べて日本の高校生は全く勉強しない。なんでこんなに勉強しないのかとあきれくらい勉強しないのが日本の高校生であります。

(3)理由は何か。もちろん本人の自覚も足りない。学校の先生、学習塾などの努力も足りないかもしれない。ただ、もしかしたら、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんの「一言」がずいぶんマイナス面で影響していることもあると私には思い当たることがあります。

どんなことかといいますと、「とにかく高校入試までは勉強しなさい」、「高校生になったらもう自由にしてい」、「高校生になったら、もう勉強しなくていいんだからね」と、家中でみんなが言っていることがあります。栃木県中の中学3年生、中学2年生、中学生のお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが子どもに好かれようと、こういう安易な「一言」を言ってしまった。それが原因で高校生になって急に勉強しなくなることが非常に多いように思います。大学入試がやさしくなったとかもあるんですけど、親やおじいちゃん、おばあちゃんの「一言」が大きな原因と考えられることもあります。「高校生になったら自由にやればいい」とか、「も

う勉強しなくていい」とか、「今だけ頑張りなさい」とか言われると中学 3 年生は、高校入試までは頑張ります。本当によく頑張ります。そんな子どもも高校入学したらピタッと勉強しなくなるわけですから、みなさんにお願いしたいのは、気を引き締めていただきたいということです。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、それから、おじさん、おばさんも、ぜひ、身近な子どもたちに、「高校生になっても、ちゃんと勉強するんだ」と言っていたきたい。「あれほど中学 3 年生で一生懸命に勉強したんですから、高校になっても勉強するように」とか「何のために中学 3 年生で勉強したのかといえば、高校で勉強するためにではなかったのか」と言っていたきたいのです。とにかく、あきれくら現代の日本の高校生が本当に勉強しません。

(4)それから、大学生も同様です。高校 3 年生でよく勉強している子どもに「大学生になったら自由に過ごせばいいんだよ」などと、親が子どもに気に入られなくて、そういうことを一言でも言いますと、子どもがその「一言」を本気にします。高校 3 年生であったも、子どもは親が子どもに気に入られようと口にした「一言」を覚えていて本気にします。その「一言」を盾(たて)にとって「じゃあ勉強しなくていいのだ」と安易に考えることになりがちです。

(5)ですから、「高校生になったら十分に勉強するんだよ。」「高校とはとにかく勉強するために行くんだからね。」と言ってあげてください。また、「大学とは勉強するために行くんだよ。」「きちんと勉強するようにね。」と言ってあげてください。短大とか専門学校も同様です。ただ専門学校の子は勉強しないわけにはいかないですね。厳しいですから。専門学校の子にはあまり言う必要がありません。学校で熱心すぎるくらい言ってくれますから。ただ、短大と大学に行かれた方には、「しっかり勉強しなさい。あなたが短大、大学に行くのは勉強するために行くんだからね。気を引き締めて勉強しなさい。」と言ってあげてください。大学や短大の先生は、学生は熱心に勉強するものだと考えていますから、勉強しない学生を見てもあきれってしまうだけで、勉強しなさいと毎日のように言うてはくれないものです。大学は勉強する人が来るところだとおもいこんでいるのが大学の先生です。

(6)アルバイトについて一言。生活のために本当に必要ならばアルバイトはせざるを得ません。しかし、生活のために必要がないのに、ケイタイや遊ぶお金ほしさにアルバイトをする高校生や大学生が山ほどいます。「アルバイトはしちゃいけません。生活のためならいいが、生活のためではないアルバイトはしちゃいけません。あなの本分は勉強だから。」と高校生や大学生に言って欲しいですね。こう言わずに、親やまわりの大人が、高校生や大学生になったら「自由にやればいい」とか、生活に必要なもないのに「アルバイトをしてもいい」とか言いますと、本気にしてしまいます。本当に勝手にやっちゃってまるっきり勉強しない高校生や大学生になってしまいます。

(7)では、高校生はどのくらい勉強しないのかというと、学校以外での学習しとて 70 %の子が 1 時間以上は勉強しないと言われていています。まったく勉強しない、つまり勉強時間が 0 分の方が半分(50%)です。日本の高校生の 50%は、学校以外の勉強は 0 分、つまり全く勉強しません。では、高校 3 年生になって、これから先大学、短大、専門学校に行こうとかいい所に就職しようとかそういうこと考えても学校以外では全く勉強せず、それまでなまけていたわけですから、急に

高校3年生の2学期になって、上の学校へ行きたいとか、どこかに就職したいと言っても学力が足りないの、なかなか決まらずブラブラしてしまうわけです。もしかしたら、ブラブラするのはお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんの「一言」が大きな原因になっていることもあります。

(8) 高校時代に全く学校以外で勉強することなく、大学や短大に OA 入試などで入学したらどうなるか。高校で勉強しなかった人が、大学や短大に入って急に勉強するとは考えられませんので、「学力不足の大学生・短大生」の誕生となります。学力不足の大学生・短大生は就職のときにその実態がはっきりしてしまいますので、なかなか思うような就職先が見つからず、ニート・フリーター、引きこもりの原因となることもあります。

(9) ぜひ、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、おじさん、おばさんなど身近な方に、高校生や大学生は勉強するように一言お願いします。これが、今日私がお願いしたいことであります。もちろん学校では、先生が口を酸っぱくして勉強するように言います。ただ、親やおじいちゃん、おばあちゃんのうちの誰が一人が、勉強しなくてもいいよと言いますと、子どもは高校や大学に入ったら自由に勝手にやればいいとアルバイトに精を出せばいいということになりがちです。アルバイトが必要な方はもちろんした方がいいですが、生活のため以外にはしない方がいいと思います。高校生や大学生のやるべきこと、本分は勉強ですからこれはお願いします。

(10) それから、高校生や大学生になったら新聞を一日一時間くらいは読ませていただきたいですね。世の中のことが新聞にはたくさん書いてあります。ですから、高校生や大学生になったら一日一時間は新聞を読むんだよと教えてあげてください。新聞を読んで世の中では何が起きているか考えてねと教えてあげてください。新聞には厳しいことがたくさん書いてあります。新聞初めマスコミの使命は、社会の watch dog (番犬) として世の中の問題点をえぐり出すことです。それを具体的に示すのが、マスコミの使命です。ですから、本当に世の中の問題点、良くないことがたくさん新聞には書いてあります。新聞を読んで良く考え、このような世の中は良くないから良い世の中にしようと考えていただきたいと思います。新聞には健康についてもたくさん書いてあります。良い状態を維持するにはどうしたら良いかが山ほど書いてあります。高校生や大学生の中には、思慮が足らずに「とにかく痩せればいい。そのためには物を食べない。」などと偏った考えをもつ人もいます。栄養のバランスは心のバランスとともに大切だということが新聞にはたくさん書いてありますので、とても参考になります。

高校生や大学生になったら新聞を1時間くらい読んで考えるようにとお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが言ってあげてください。

3. おわりに

身近な大人が言わない限り、勉強しないし、新聞も読まない子どもが激増しています。勉強しない限り学力身に付きません。学力不足の高校生や大学生は、将来が本当に心配です。ぜひ、大人は身近な子どもたちに不足しているところを、言い方を考えて少しずつ指導してあげてください。

— 2008年8月28日加筆 —